

平成 29 年度 文化財防災訓練等実施状況報告

都道府県名

熊本県

行 事 名 称	第 64 回文化財防火デー 第 18 回阿蘇神社消防訓練
実施期間・日時	平成 30 年 1 月 26 日（金） 午後 2 時～3 時
実 施 場 所	重要文化財阿蘇神社（熊本県阿蘇市一の宮町宮地 3083-1）
主 催 者	宗教法人阿蘇神社、阿蘇市教育委員会

■実施内容

訓練の想定

参拝者がいる昼間の出火を想定。

火炎を感知したセンサーにより神社職員及び復旧工事関係者が火元を確認、火元に近い屋外消火栓又は消火器を選択し初期消火を実施。参拝者の避難誘導を行うとともに消防署に通報する。

建造物修理中のため実際の放水は行わなかったが自動放水銃も起動することを想定して実施した。

訓練の内容

神社職員・工事関係者が 5 班に分かれ、火元確認・通報・初期消火・避難誘導の一連動作を交代して各班で実施。消防署員が抜き打ちで火元を設定しスモークマシンで発煙。班ごとに火元を変更して実施。

鎮火後の消防署等の現場検証後を想定し、市教育委員会所属の学芸員 2 名があらかじめ準備した段ボールを被害箇所と見立てて文化財被害確認調査を実施した。

詳細は別添訓練実施計画書のとおり。

参加者及び役割分担

阿蘇神社職員 （6 名）： 119 番通報、初期消火、参拝者避難誘導

復旧工事関係者 （9 名）： 119 番通報、初期消火、参拝者避難誘導

阿蘇市教育委員会 （5 名）：被害状況調査、訓練全体統括

阿蘇広域行政事務組合消防本部中部消防署 （4 名）：訓練指導、講評

阿蘇市文化財保護委員 （7 名）：訓練巡検

特に工夫した点

実践的な訓練を実施するため出火箇所を訓練当日に抜き打ちで設定し、神社職員・工事関係者を 5 班に分けて訓練を繰り返すたびに出火箇所を変更して状況に応じた対応を確認した。

平成 28 年熊本地震の教訓を踏まえ、今回から災害による文化財被害を想定した市教委学芸員による調査を訓練に組み込み、重要文化財の概要・建造物配置図・被害チェックシートを取り込んだ Android タブレットを用いて現場で被害調書を作成した。また被害状況の精緻な記録を目的として複数の画像から三次元形状を復元する SfM を導入し、被害箇所の立体的・空間的な記録訓練を実施した。

問題点・課題

平成 19 年の重要文化財指定を受け、平成 20・21 年度に自動火災報知設備等の防災施設を国庫補助で整備し、平成 25 年には保存活用計画を策定して所有者による防災体制を整備した。しかし、平成 28 年の熊本地震により指定建造物のみならず隣接する神社施設も被災して現在復旧工事を実施中であり、境内環境が保存活用計画策定時から大きく変化しているため、復旧完了後を見据えた防災施設及び防災体制の更新を検討する必要がある。

その他

所有者の自主的な活動として、防災施設の点検及びメンテナンスを文化財防火デーでの訓練日を含め年間を通じて定期的に実施し、防災施設の機械器具に影響を与える阿蘇地域特有の火山灰や冬の凍結などへの対策を日常的に実施している。また復旧工事進捗による境内環境の変化に応じて、今後も関係機関同士で情報共有し災害への備えを図りたい。

訓練風景

別紙のとおり



訓練前の準備確認



火元の確認と消防署への訓練通報



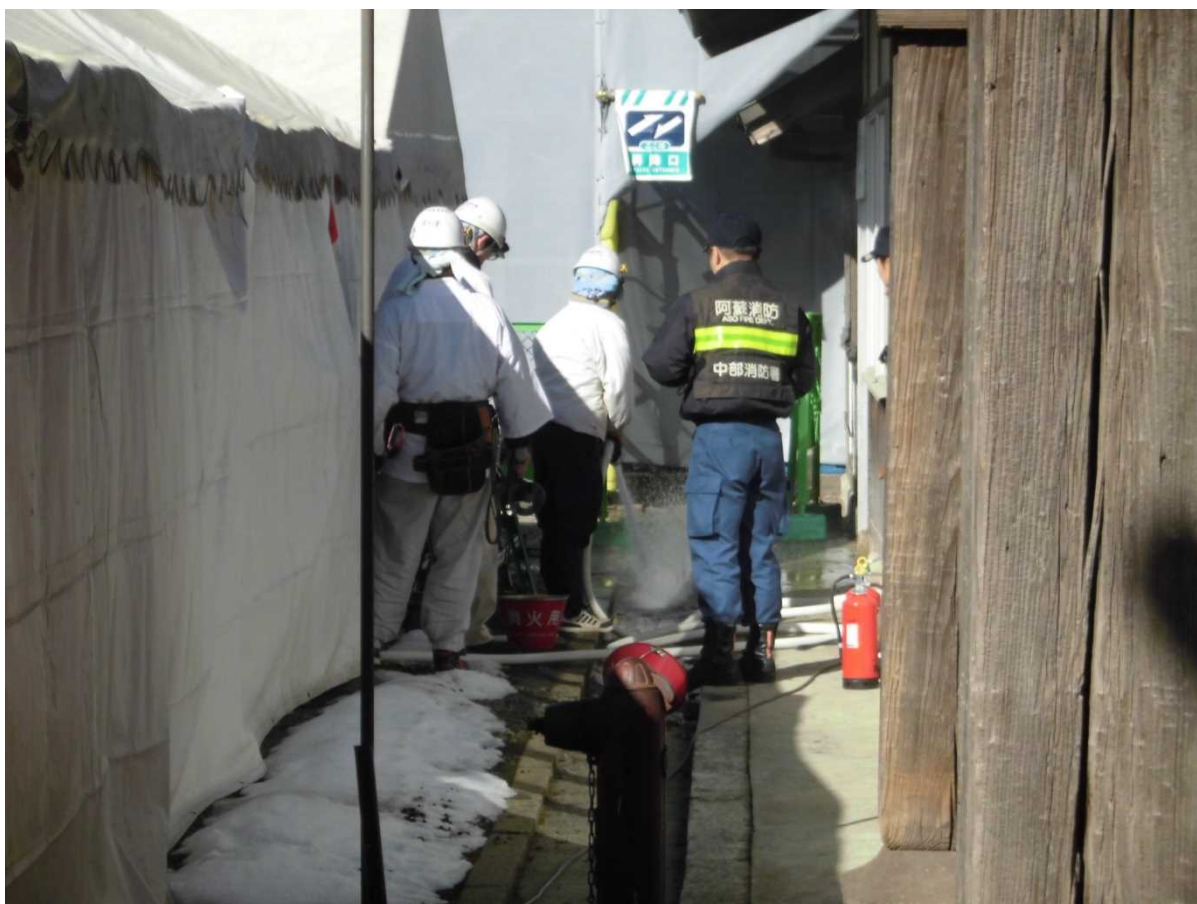
神社職員による屋外消火栓を使用した初期消火活動



教育委員会学芸員による文化財被害確認調査



工事関係者による火元確認活動



工事関係者による初期消火活動